

手塚ファン magazine

Vol.
005
2019年
1月31日号

今月のファンマガ表紙は

「漫画教室」第1回扉絵



「漫画少年」1952年4月号の扉絵をもとに鈴木出版の
単行本（未刊行）用に切り貼り・加筆されたもの



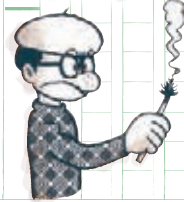
僕らが

愛した

手塚治虫

第74回

二階堂黎人



二階堂黎人の黒犬黒猫館
<http://nikaidou.a.la9.jp/>

第74回 一九七九年の手塚治虫

1

一九七九年という年は、手塚プロ誕生後の手塚治虫にとって、もっとも重要で、もっとも怒濤的で、もっとも充実した年であったと思う。

前年、日本テレビの『24時間テレビ』で、手塚プロ制作の『100万年地球の旅 バンダーブック』が放映され、大変好評であった。その結果、翌年——つまり、七九年——の『24時間テレビ』でも、新作アニメ『海底超特急 マリン・エクスプレス』を、手塚治虫と手

塚プロは作るようになった。

また、日本テレビは、この両者の成功を元に、カラー版『鉄腕アトム』を一年間放送したいと、手塚治虫に打診してきた。虫プロ版の『鉄腕アトム』は白黒で作られており、再放送に適さなくなっていたため、手塚治虫もカラー版の制作を前々から考えていた。

よって、両者の希望がうまく合致して、この企画も進行することになった。



虫プロ版『鉄腕アトム』より

それから、七八年には、市川崑監督の映画『火の鳥』が東宝系で公開されたが、これは〈黎明編〉を基にした実写ドラマで、火の鳥が登場する部分のみ、手塚プロ制作のアニメが合成されていた。

この縁から、東宝は、『バンダーブック』の成功も考慮に入れて、手塚プロに劇場用長編アニメの制作を依頼してきたのだった。

これが、八〇年三月に公開されることになる大作アニメ『火の鳥2772』である。そして、このアニメの宣伝のためにファンクラブを作ろうということになり、それならば、いつそうのこと、手塚治虫の仕事全般の応援のファンクラブにしたら良いという話に拡大され、七九年四月に、手塚プロ主宰の手塚治虫ファンクラブが誕生したのだった。

という大きな出来事があったので、僕にとっても、非常に意義深い年であった(今でも、そのファンクラブがこうして続いているのだから、感無量である)。

このあたりの事柄については、別の回に詳しく語ることにしよう。

とにかく、『火の鳥2772』の企画は、七八年の秋には生じていたと記憶する。例によって、東京での《メトロポリス》集会の時に、僕たちは、会長の森晴路氏から、

「まだ秘密だけどね、手塚先生が、劇場公開用の、『火の鳥』の長編アニメを作ることになりそうなんだ。東宝が手塚プロに制作を持ちかけてきたんだよ」



『火の鳥 2772』より

と、教えられたのだった。

「えっ、本当ですか!」

「いつ、公開ですか!」

「『火の鳥』の何編をアニメ化するのですか!」

と、これまた例によって、僕たちは口々に質問した。

すると、森氏から驚くべき情報もたらされた。

「原作マンガのどの話でもないんだよ。長編アニメ用のオリジナルな物語になるらしいんだ。それで、今、手塚先生がシノプシスを書き始めているからね」

僕たちは、また口々に叫んだ。

「どんな話になるんですか!」

「原作マンガとの関係は!」

「過去の話ですか、未来の話ですか!」

森氏は、答える前にニヤリと笑い、

「たぶん、未来の話になります。今までの『火の鳥』のイメージをガラリと変えるものになるはずですよ」

公開は八〇年初頭になるでしょうから、東宝と手塚プロとで、『火の鳥ファンクラブ』というのを作って、七九年中は、大宣伝する手筈です」

と、わくわくするようなことを言ったのだった。

というわけで、七八年後半からの僕たちは、『24時間テレビ』での第二弾アニメと、『火の鳥』の新作長編アニメに期待して、大いに盛り上がったのだった。

2

一九七九年における手塚治虫の業績は、おおまかに次のようになる(主語は手塚治虫)。もちろん、これらの合間に、通常のマンガの執筆や単行本の発行の他、『マリン・エクスプレス』、『火の鳥2772』、『鉄腕アトム』の企画や準備や制作が進んでいくわけだ

から、大変な忙しさであった。

一九七九年「五十一歳」

一月一日から六日にかけて、NHK・FM年始特集ステレオ劇画で、『ライオンブックス』シリーズの「安達が原」、「コラープス」、「百物語」が放送される。

二月二十一日 テレビ朝日「水曜スペシャル ロボット特集」に出演。

三月二十九日 日本ビクター株式会社主催「第一回東京ビデオフェスティバル」の審査委員を務める（以後毎年務める）。

四月十五日 『国蝶オムラサキを護る会発足大会』に出席。

四月三十日 手塚治虫ファンクラブが新発足し、『手塚治虫ファン大会』が東京の九段会館にて開催される。『ユニコ』のパイロット・フィルムなどが上映される。

五月十日 NHK総合テレビで『私の自叙伝』放映。

六月二十九日 児童漫画の開拓と業績により、『第二回 巖谷小波文藝賞』を受賞。

八月五日〜十日 アメリカ旅行。フロリダのNASA、ディズニーワールドを見学。



『海底超特急 マリン・エクスプレス』より

八月二十六日 原案、絵コンテ、演出の手塚プロダクション制作スペシャル・テレビアニメ『海底超特急 マリン・エクスプレス』を、日本テレビで放映。

十一月八日 青二プロのシンフォニック・ドラマ『火の鳥 黎明編』公演。

十一月十五日

ニッポン放送で、ラジオカプセル・79『ドン・ドラキュラ 吸血鬼ハンターの巻』を放送。

十一月二十六日 『同 吸血列車の巻』を放送。

十一月十八日 TBSテレビ『オーケストラがやって来た』

手塚治虫の語るモーツァルト』に出演。

3

一九七九年の少年マンガ界の様子は、前年とさほど変わりなかった。SFブーム、美少女ブーム、ラブコメ・ブームなどが続いていた。少年週刊誌は順調に発行部数を伸ばしており、少女マンガも注目の作家が続々と出てきた。また、アニメの人気も、動員や媒体など様々な点で拡大していた。

世の中一般で見れば、前年には映画『スター・ウォーズ』や映画『未知との遭遇』が、この年には映画『エイリアン』が公開され、様々な媒体がSFを特集していた。喫茶店などに置かれたインベーダー・ゲームが大ブームになったのも、七九年である。他にも、デイスコ・ブームなどで、東京で言えば、新宿や六本木の夜は非常に盛り上がりつつあった。

そんな七九年度における、各週刊誌での人気マンガは次のとおり。いずれも、手塚治虫の強力なライバルたちであった。

〈少年マガジン〉

ちばてつや『おれは鉄兵』、矢口高雄『釣りキチ三平』、小林まこと『1・2の三四郎』、柳沢きみお『翔んだカプトル』、永井豪『凄ノ王』、藤子不二雄『少年時代』

〈少年サンデー〉

石森章太郎『サイボーグ009』、小山ゆう『がんばれ元氣』、さいつと・たかを『サバイバル』、林律雄／大島やすいち『おやこ刑事』、高橋留美子『うる星やつら』、横関かずお『まことちゃん』

〈少年ジャンプ〉

江口寿史『すすめパイレーツ』、ゆでたまご『キン肉マン』、金井たつお『ホールインワン』、寺沢武一『コブラ』、秋本治『こちら葛飾区亀有公園前派出所』、武論尊／平松伸二『ドーベルマン刑事』

〈少年チャンピオン〉

水島新司『ドカベン』、山上たつひこ『がきデカ』、望月あきら『うひが丘の総理大臣』、飯森広一『レース鳩0777』

この中で、僕が一番好きになった作品は、寺沢武一『コブラ』だった。まるでアメコミのようなダイナミックかつ緻密な絵柄

で、最高に面白いSF冒険物語が繰り広げられるのだから、あまりに独特で、毎週、夢中になった。

後で知ったのだが、寺沢武一は、一九七六年に手塚治虫のアシスタントをしていて、翌年には早くも、「大地よ、蒼くなれ」で少年ジャンプの読者賞を獲得している。だから、最初から、物凄い逸材だったわけだ。



『コブラ(1)』集英社

もう一つ大好きだったのは、高橋留美子の『うる星やつら』。前にも書いたが、デビュー前から注目していた作家なので、この作品にはもろにはまった。当時の彼女はまだ大学生だったので、月一くらいの連載であったが、『うる星やつら』の新作が楽しみで仕方なかった。



『うる星やつら』扉絵



手塚治虫生誕90年企画

手塚先生

みつけた!

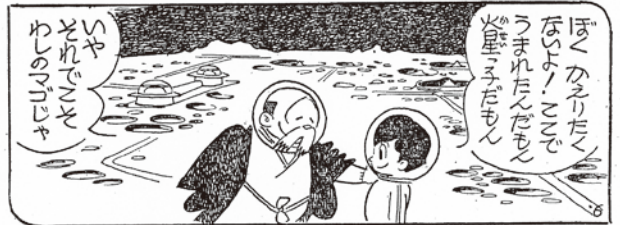
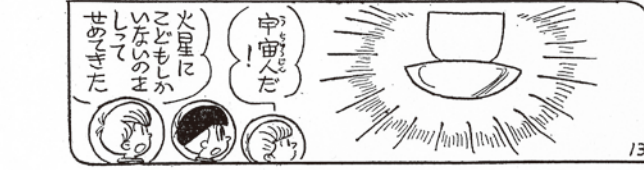
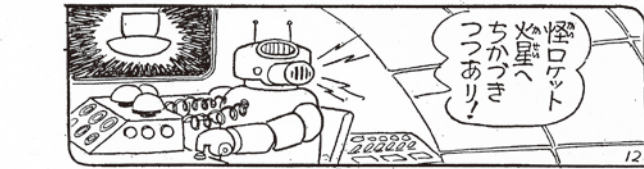
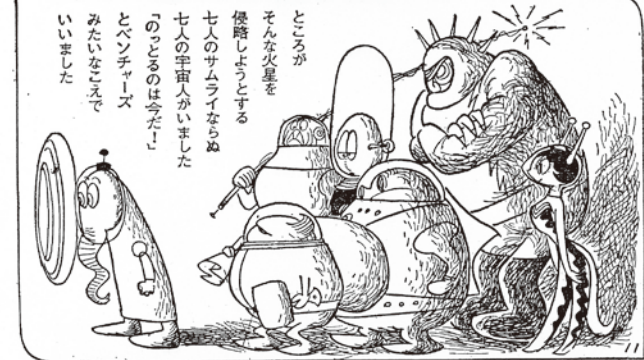
手塚先生生誕90年を迎え不定期掲載している、「ディスカバー手塚治虫」。まずは日本経済新聞1966年1月1日号に掲載された手塚先生のマンガ「あけまして・火星」を2か月に分けて掲載いたします。それでは、前編をお楽しみください。

☆ あけまして・火星

手塚治虫



火星は一年じゅう
冬でありました
一年八月の頃に
お正月がやってきました
火星ではそんなのです
でも、さみしいお正月でした
火星の町にはおじいさんと
こともとロボットしか
いなかったのです



さて、少年画報で1959年1月号から60年1月号まで連載されていた、手塚先生の、おもしろい人を訪問してインタビューする企画《手塚先生のまんが訪問》で手塚先生が描いた挿絵を紹介するコーナー。今月は武者絵だこをつくる名人を訪問。（かなを漢字にしたり、原文に手を加えています）

○「たこたこがれ」（1960年1月号）

今回は、たこの武者絵かきの名人のお宅を訪問です。

名人「私はね武者絵が専門です。弁慶、金時、義経それから大石内蔵助も描きますよ」

手塚「力道山や長嶋はどうですか？ 美智子妃殿下は？ まぼろし探偵は？」

名人「人工衛星や南極観測隊だこも描きましたよ。あんまりゴチャゴチャして、見映えがしませんでしたがねえ」

手塚「最高はどのくらいの大きさのたこを、お描きになりましたか？」

名人「大きいのは畳3畳、小さいのは、ハガキの半分くらいです」

手塚「いやあ、すごいですね。これは宇治川の前陣争いの、佐々木高綱の絵ですね。こんなおっきいのは、どうやって描くんですか？」

名人「はじめ下がきをとります。そして、それを上から写して描くのです。絵具は、染め粉です」

手塚「見ているうちに、僕も描きたくなつて、うずうずしてきましたよ。だけど、こんなにいい絵に描いた絵だこが、電信柱に破れて引っこかっていたりしたら、ガッカリするでしょうね」

名人「そりゃあそうですね。東京にも、近ごろは、たこをあげられるような原っぱが無くなりましたよ……」

手塚「名人は昔からたこが好きでしたか？」

名人「ええ、父がやはりたこの絵を描いていたもん

で、私は、父によく特別製のたこをこしらえてもらつて、友だちに自慢しながらあげたもんでした」と、名人は昔が懐かしそう。



さて今度は千代田区飯田町にある、たこ問屋に行きました。ここでは名人がお描きになった絵に竹の骨や糸を付けております。

問屋「そうですね。毎年五、六十万枚売れますね。アメリカへも輸出しています」

手塚「変わったたこがありますね。これは、六角だこですね。三角つてのは無いんですか？」

問屋「三角じゃあ、飛ばないでしょう」

手塚「丸いのは？ 一本足ののは？」

問屋「それじゃカカシですよ」

手塚「うへ、こいのぼりがありますね。タコとコイとはどういう縁ですか？」

問屋「来年のお節句用を作っているんです」
冬に夏のお仕事をやるなんておかしいことですね。
※とおっしゃいますが、先生もその後そんなお仕事をたくさんなさいますよ！（笑）

手塚治虫 キネマ・シアター

第133回

野口文雄



前回は、「この悪魔が最後に画面からこつちを指さして、次はお前だぞ、といった顔をしてニヤリと笑う、そのすくみ」と言う所で終わった。さて、その続き。

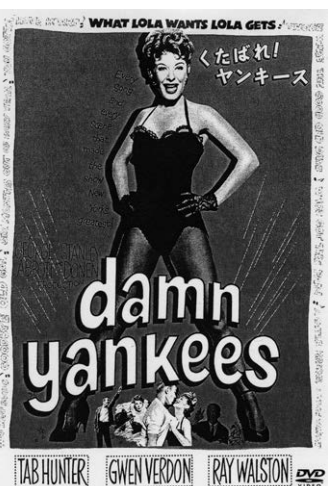
これを、実は手塚先生、えらく気に入ってしまった。いや映画全体というだけでなく、最後の指さす場面。近頃の映画を観慣れた人は、そんなことでなんで？ と思うだろうが、画面の中から観客に向かって、今度はお前にとりつくぞ！ と指をさすという趣向は、当時の観客にはえらく斬新だったようで、日比谷映画のパンフに、淀川長治もそのことを書いていた。それくらいだから、やたらに映画の影響を受け易いと自認する手塚がそれをやらない筈もなく、それはもうメッタヤタラにやらかし、代表的な例としては『緑の猫』（昭和31年）がある。これは、猫の姿に変身してやって来た宇宙人が地球の若者にとりついて夢を叶え、やがては墮落させるという、これまた『ファウスト』的な、「悪魔の金」を更に捻った作品で、だからラストのコマ

には、次に緑の猫が狙っているのは君だぞ！ と警告する手塚自身（？）の指さす手が描かれていたのだ。

▼『緑の猫』
1956年12月号
おもしろブック



「悪魔の金」は北欧伝説をアメリカに移し変えたもののようで、ファウスト伝説ではないと思うが、手塚はこれもファウストの変形と考えていたようなので、これもまた、手塚ファウストの旅の宿りの一つと思っていだろう。さて次なる映画はミュージカルの『くたばれヤンキース』（監督は『雨に唄えば』のスタンリー・ドーネンとジョージ・アボット）。これもやはり、手塚漫画と大いに関係がある。つまり、プロ野球の名投手になりたい男の夢を叶えてやる悪魔に「美人の助手がいて、この美人が女スパイよろしく色気をまきちらしながら男を監視して、タマシイをぬきとる役目をするのだ。ところがこの助手、男にゾッコン惚れてしまうハメになる。そこで悪魔がおこつて、この美人をヨボヨボのバアさんに変えてしまう。いやもうグロテスク趣味」なんて、手塚先生云つてゐるが、手塚のグロテスク趣味も人後に落ちず、『百物語』も『ネオ・



▶『くたばれヤンキース』1958年アメリカ
ワーナー・ホーム・ビデオ

ファウスト』も結構グロなところもある訳で、それより何より、悪魔の美人の助手が色気まきちらすのを、手塚は悪魔自身を美人にして、過剰とも思える程の色気をまきちらさせたのだ。



▶『ネオ・ファウスト』悪魔メフィスト
1988年1月1日+8日合併号
11月11日号 朝日ジャーナル



そういえば「悪魔の美しさ」でも、王と王妃がバレエを観賞する場面で男女の悪魔が踊っていたが、バレエなんかにも詳しい手塚だから、その辺が美人悪魔の元かもしれない。尤も、朝日文庫版『ファウスト』の長谷川つとむの解説によると、ハイネもバレエ台本の『ファウスト』で悪魔を女性にするアイデアを見せていたというから、どれか一つの影響と断定すべきものではないだろう。いづれにしても、手塚がアニメ化を考えていた『ファウスト』のメフィストは、如何にもバレエのイメージではある。



▶『ネオ・ファウスト』
アニメ未完成 後に一部映像化

で、次なる映画は、手塚の「悪魔映画の系譜」の書かれた後の公開の『ファウスト・悪魔のしめ』について書いておきたい。リチャード・バートン製作・監督（共同）・主演になるこの映画の原作は、ゲーテが1774年（安永三年）頃書き始めたという『ファウスト』より遙か以前、1588年（天正十六年）の、イギリスのクリストファー・マローの戯曲『ファウスタス博士の悲劇』で、手塚も当然これを観たろうが、この映画について公に書き語ったことはないと思う。それはさて、手塚版『ファウスト』にも出てくる古代ギリシャの美女ヘレネ（映画『トロイのヘレン』でも有名なあのヘレンだ）を、この映画では、バートンと結婚したばかりのエリザベス・テイラーが演じており、台詞は全くないのだが、その代わり（？）に全裸を披露するというので話題になった。一見の価値有りやなしや、昔のことだが、『ドクター・ファウスト』博士の異常な愛」というタイトルでビデオになったから、物好きな方は探してご覧になるといい。



▶『ファウスト』
（右）原本中扉 （左）ヘレネ
1950年1月15日発行不二書房

ヤン・シュヴァンクマイエルの「ファウスト」は、話は現代のプラハに置き換えてあるが、人間の演じる部分と、昔のドイツの子供が観ていたという、基本ともいえる人形芝居による部分に、クレイ（ねんど）アニメも混ざった奇妙な代物で、もし観ていたら、手塚の興味を惹いたろうと思われる。「ファウスト」の映画は、手塚の愛読書であった「世界文学全集」の「ファウスト」にも紹介されていた、大正15年、ウーファ製作の超特作ドイツ映画を始めまだまだあるが、字数には限りがある。



『ファウスト』ヤン・シュヴァンクマイエルの話は続く...



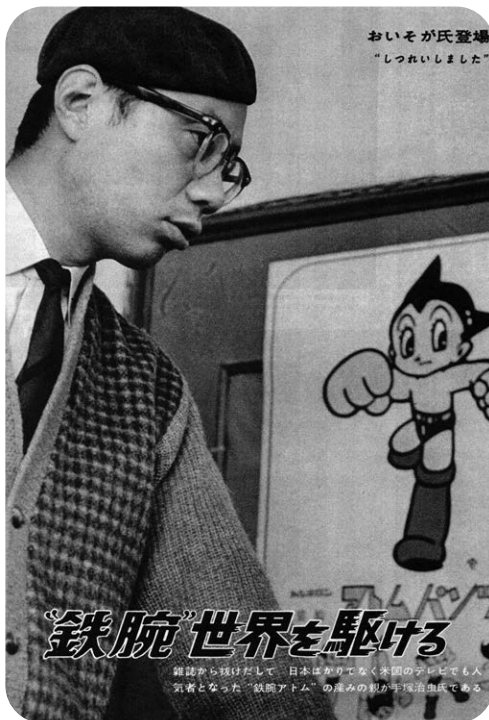
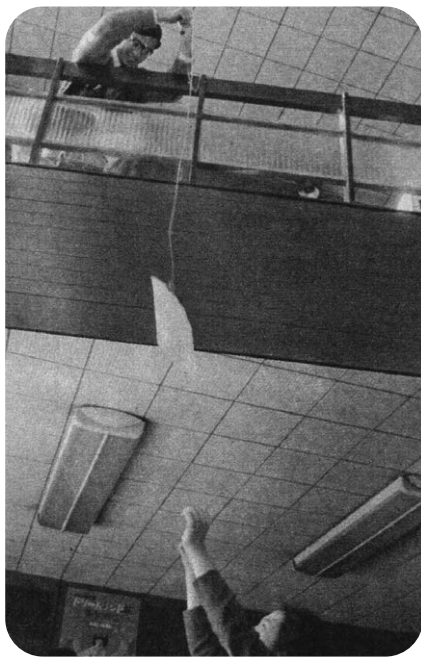
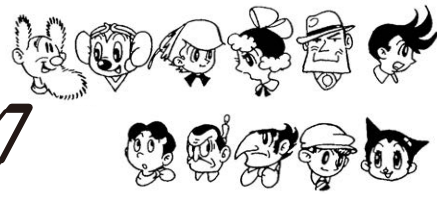
▲『ヘレン・オブ・トロイ』
1956年 アメリカ
ワーナー・ホームビデオ
公開時のタイトルは
『トロイのヘレン』



▲▲『ドクター・ファウスト
・博士の異常な愛』
1967年 イギリス 丸紅/アポロン
(左) エリザベス・テイラー



鉄腕アトム



今月から数回に分けて
「鉄腕“世界を駆ける”
と題した手塚先生に密着した
特集記事をご紹介します
まずは第一回、先生の漫画への
始まりの出来事です。

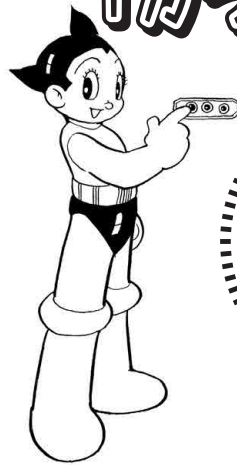


この間に漫画では着々と地歩を築いていたし、医者勉強もおこたになかった。阪大を卒業すると奈良医大の研究室に籍をおいていたのが三十六年、タニシの精子の研究で学位をとった。しかしせっかくの学位も、生かすことができなくなった。漫画の繁昌のため、これ一本にしばらくを得なくなったのである。



漫画の主人公はその作者に似る。といわれているが、手塚氏とアトムもお互いよく似ている。色白で柔和な風貌にもかかわらず、無限のエネルギーを秘めているかのような活躍ぶりは実にアトムの真実である。終戦直後、二十代になったばかりの頃、大阪や京都の新聞に漫画を発表していた。続いて二十二年には、新宝島、というはじめての漫画本を出版して、関西では若手漫画家のホープとみなされるようになったが、学校は阪大の医学部に通った。彼の好奇心のおう盛さは、医者と漫画家という二つの道からもはみだし、アナウンサーの試験に合格したり、俳優になったり、宝塚歌劇の雑誌「宝塚」でも働いたりしていた。もちろん

いまさら、 1から手塚治虫!



第61回

文
竹内才サム

「ジャングル大帝」

手塚マンガにおける表現の革新性について書いています。さまざまな技法を実験的にマンガのなかに用いた。その跡をたどってみようというわけです。

今回は「ジャングル大帝」をとりあげてみましょう。巨視的にみれば、「ジャングル大帝」は先生の考えた「ストーリーマンガ」の実践でした。多数の人物が登場し、大河的な物語の展開。あるいは壮大な舞台背景、悲劇的結末など。でも、そっちに焦点をあわせると大変。ストーリーマンガそのものについては、また別に稿をあらためて書くとして、今回は、もっと細部に注目してみることにしましよう。

図1をみてください。ライオン同士が闘っていますね。主人公のレオと、黒いたてがみのライオン・プブとの死闘です。プブが愛するライオンをさらっていった。ライオンを取り戻そうと、レオは追いつき闘いを挑む、そのシーンです。でも、ふつうのマンガとはちよつと違う。絵柄がリアルで絵物語風。最初のコマなんか、まるで版画のようにも見えます。図2の砂絵のようなコマもあったりして。いままで吹き出しを使いデイズニータッチの絵柄だったのに、突如ここで絵柄ががらつと変わってしまうのです。『漫画少年』

年』の1951（昭和26）年10月号。連載の第13回目のことでした。

なぜこんなコマ展開になってしまったのか。

信じられないかもしれませんが、戦後すぐには絵物語という形式の作品が、多数雑誌に載っていました。この絵のように、絵と文字とが分離したものです。それを強く意識。またそれ以上に、こうしたコマ展開になったのは、当時公開されたアニメ映画が関係しています。デイズニーの「バンビ」です。

デイズニーの「バンビ」は、戦後の作品ではありません。「バンビ」が本国アメリカで公開されたのは1942年。もちろん日本は戦時下であり、一般公開はされてはいません。日本での公開は、戦後の1951（昭和26）年5月のこと。

手塚先生は『漫画少年』に「ジャングル大帝」を連載中。おなじように動物が主人公で、森を舞台にしたデイズニーの「バンビ」が一般公開される。先生は、大興奮して映画館に通ったそうです。

自伝には「バンビ」を「八十回以上観た」と書いておられます（この回数には、やや誇張が入っているかも）。さつそく『漫画少年』には関連した作品を執筆。1951（昭和26）年8月号には、「バンビ」の解説と絵物語が掲載されるようになります。

その影響は「ジャングル大帝」にも波及。

図1



「ジャングル大帝」の連載は、雑誌『漫画少年』の1950（昭和25）年の11月号から開始、「バンビ」の公開は翌年5月より。『ジャングル大帝』の雑誌連載時期とつきあわせると、第9回め、1951年6月号あたりに該当します。以降、物語は本格的に月光石も求める展開にシフトしていく部分。その途中に、突如デイズニーからの刺激が顔をみせたというわけです。

映画「バンビ」には後半、やはり成人したバンビが、雌をめぐって他の雄鹿と闘うシーンが印象的に描かれていました。真つ黒な闇のなかで、ふたつの動物がとつくみあう。光の影との対比がきいてとても迫力がある。力動的な画面で、観るものを釘付けにします。先生はこのシーンに触発されて、図1、2のようなページを描いたのです。やはり雌をめぐって雄同士が闘うシーン。先生なりのデイズニー映画へのオマージュだったのでしよう。

ストーリーマンガが戦後マンガの主流になる。それは手塚先生の信念でした。多数の人物を登場させる、映画的手法を用いる、長編の形式とする、笑いは必ずしも必要ないなど、これまでにないマンガの形式を構想し実践なさっていました。そのあいだにさまざまな試行錯誤を。かなり柔軟にマンガのこれからを模索なさっていたのでした。ここにみた絵物語形式も、そうした表現のひとつだったわけ

図2





出版情報

- 『どろろ (魃魅魍魎の巻)』ATCW(AKITA TOP COMICS WIDE) アンコール出版
秋田書店 発売中 583円(税別)
戦国時代の世に身を寄せ合って生きてきた百鬼丸とどろろ。唯一、心を許せる仲だった二人の間に亀裂が…。
別に道を行くことになった二人の未来は!?



関連出版情報

- 『どろろと百鬼丸伝』月刊チャンピオンレッド連載
原作:手塚治虫 漫画:土貴智志 秋田書店 2月19日発売予定 759円(税別)
- マンガ書籍『TEZUCOMIテヅコミ』Vol.5 マイクロマガジン社
2月15日発売予定 通常版 880円(税別) 限定版1,450円(税別) 特製メダル付き
※詳細はお近くの書店にお問い合わせください。
- 新連載『TVアニメ制作秘話〜手塚治虫とアニメを作った若者たち〜』
「週刊少年チャンピオン」第8号 秋田書店 発売中
原作:宮崎 克 漫画:野上武志 269円(税別)



アニメ情報

- 『どろろ』50年ぶりにテレビアニメ化された『どろろ』はご覧になりましたか?
以下の放送局でご覧いただけます。

・TOKYO MX 毎週月曜 22:00 から放送	・時代劇専門チャンネル 毎週金曜 26:00 から放送
・BS11 毎週月曜 24:30 から放送	・Amazon Prime Video 配信

舞台情報

- 舞台『どろろ』3月より公演が始まります。
アニメ版『どろろ』の百鬼丸役の鈴木拡樹さんが舞台でも百鬼丸で登場します。
- 大阪公演 2019年3月2日(土)〜3日(日)
公演会場:梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ 全席指定8,900円(税込)
お問い合わせ:キョードーインフォメーション(0570-200-888)
- 東京公演 2019年3月7日(木)〜17日(日)
会場:サンシャイン劇場 全席指定8,900円(税込)
お問い合わせ:サンライズプロモーション東京(0570-00-3337)
- 福岡公演 2019年3月20日(水)
会場:ももちパレス 全席指定8,900円(税込)
お問い合わせ:キョードー西日本(0570-09-2424)
- 三重公演 2019年3月23日(土)
会場:三重県文化会館大ホール 全席指定8,900円(税込)
お問い合わせ:中京テレビ事業(052-588-4477)
- 『悪魔と天使』
原作:手塚治虫「ダスト8」
出演者:観月ありさ・高島礼子・野村宏伸・黒川智花・佐藤B作 他
河村隆一(テーマ曲)
- 神奈川公演 ~2月3日(日)
会場:KAAT 神奈川芸術劇場 全席指定9,500円〜4,500円(税込)
お問い合わせ:サンライズプロモーション東京(0570-00-3337)
- 大阪公演 2月9日(土)〜10日(日)
会場:梅田芸術劇場メインホール
全席指定9,500円〜4,500円(税込)
お問い合わせ:キョードーインフォメーション(0570-200-888)
- 名古屋公演 3月1日(金)〜3日(日)
会場:御園座 全席指定9,500円〜4,500円(税込)
お問い合わせ:御園座 営業部(052-222-8222)



©手塚プロダクション/ツインエンジン





30 - 0147 西山智子



22 - 0680 三浦綾花

あけましておめでとうございます！
イノシキヤラが思い浮かばなかったので
『ブタのヘソのセレナーデ』のノンコちゃんです。

2019年も早一か月が過ぎました。
みなさんからの年賀状の一部をご紹介します。
たくさんの年賀状ありがとうございました。
この場を借りてお礼申し上げます。



26 - 0014 石川雅啓

新年あけましておめでとうございます。
今年の年賀状『テレビの国のあやちゃん』です。



22 - 0525 名田晶子



27 - 0846 田浦紀子

15 - 0801 松本芳子



12 - 0562 富田尚志
原作、出版社、メディアの枠を超えたコラボ作品！
さてこれは何と何でしょう？



手塚イラスト大賞

今月のお題

「今年の一押しキャラ・マンガはこれだ！」

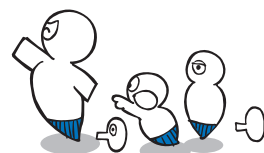
15 - 0827 ひろし



04 - 0030 佐々木康宏
いんこVS千里刑事



09 - 0029 猪浦祥夫



今年…！？……いやあ…来年の干支ですね…これでは…



12 | 0670 菊地直人

手塚ファン川柳大全

- 第一句 『火の鳥』（子供の）が 噴火口から 生れ出る
- 第二句 『火の鳥』は ダメヨ今ダメ 火傷する
- 第三句 『火の鳥』は 鉄の矢だとして 死にはせぬ
- 第四句 火口へと 自ら投ず 『火の鳥』よ
- 第五句 煉獄で 生れ変れる 『火の鳥』よ

○ 成長した どろろはどんな 美人かな？ 41 | 0055 首藤美代子

○ 先生の 平成体験 1ヶ月 14 | 1375 田中 昭

○ ケンコバが 手塚の時代 今、正に！ 12 | 0670 菊地直人

※2018年11月26日 日本テレビ系「にけつッ!!」にて、ケンドー・コバヤシ君が今のAI時代を語る際に先の言葉を。

年間購読者限定 新春プレゼント！

雑誌版手塚ファンマガジンを年間購読していただいている読者の方々に、プレゼントをご用意しました。

※ビリケン製 プリキ人形（マダマ大使、ビッグX）

※田貝光史さんご提供

※手塚キャラクター・ファンシーグッズ 数名

※マンガや関連書籍 数名 …などなど。内容はお楽しみ！

【応募方法】はがきかメールでご応募ください。

住所、氏名と合言葉を必ずお書きください。

合言葉は、本号の封筒の中に入っている紙をご覧ください。

合言葉のないものは無効です。

【宛先】〒169-8575

東京都新宿区高田馬場4-32-11

「手塚治虫ファンクラブ 2019プレゼント」係

【メール】fanclub@tezuka.co.jp

・2019年2月28日の消印、応募メールまで受付。

・抽選の上、当選者には3月中にご送付いたします。

・当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



編集部からのお願い

●お送りいただいたお便りやお葉書、イラストなどは返却できません。

●メールでの投稿はこちら
fanclub@tezuka.co.jp

お題

お題の中からインスピレーションを受けた「手塚キャラ」イラストを募集します。
毎回2回分募集。

【337号】（締め切り2月18日）「新人キャラがご挨拶！」

春は入社や入学など、新しいことが始まります。

色々な場所で新人としてコスチュームをまとった手塚キャラ。

【338号】（締め切り3月18日）「手塚キャラの子供時代を想像しよう！」

ロボットにも子供時代があったとしましょう！そこで、手塚キャラの子供時代を想像ください。

どんな姿かたちだったでしょう？



手塚治虫の TVマンガ

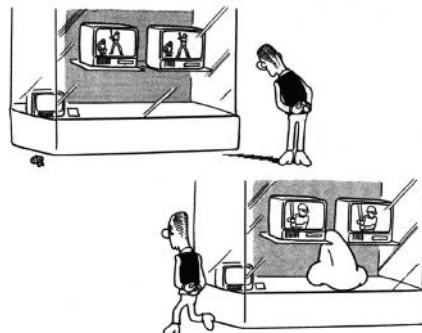
1986.6.20

ウチの学校へんな机を入れたなア…
おまけにしょっちゅう席を入れかわるんで
やりきれない



1986.6.13

ディスプレイ



FCのつぶやき



読者の皆さんは、平成最後の数か月をどのようにお過ごしですか？何かしておこうと思えますか？ 時節柄「平成を振り返る」的なテレビや新聞記事を見ますが、改めて30年って長い年月なんだなと思います。「そこを過ごしてしまったか！はい、過ぎてしまいました」「悔いはあるか！はい、あります」「結果的によい30年だったか？はい、楽しい30年でした」人それぞれに想いもあると思います。248番目の新元号も平和な年でありますよっ！

【和田】

講談社〈手塚治虫漫画全集〉創刊や
長篇アニメ『100万年地球の旅
バンダーブック』の制作など
非常に活動的だった
70年代後半の手塚治虫の
足跡をまとめる。

二階堂黎人
Reito Nikaido

僕らが愛した 手塚治虫

推進編

定価ともに
(本体2,200円+税)

手塚マンガ愛好家であり、手塚治虫ファンクラブの会長もつとめたミステリー作家の二階堂黎人が、自身のマンガ受容史を手塚治虫のマンガ家活動の様々な形と重なる形で話をまとめる。一九七七年から七八年の手塚治虫の活動を主に扱い、手塚治虫が『ブラック・ジャック』や『三つ目がとおる』でヒットを飛ばし、手塚プロがふたたびアニメーションの制作をスタートする、非常に活動的な時期を精緻に描く日本漫画史の評伝、第五弾。



『ブラック・ジャック』、『三つ目がとおる』の連載がスタートした73年、74年頃の手塚治虫の活動をまとめる!

僕らが愛した 手塚治虫

復活編

手塚プロマガジン 通巻 335 号 2019 年 1 月 31 日発行
発行：〒169-8575 東京都新宿区高田馬場 4-32-11 手塚治虫ファンクラブ TEL：03-5386-7155 編集人：和田おさむ 後援：(株)手塚プロダクション <https://tezukaosamu.net/>
印刷・発送：コンテック・ス (株) 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3 丁目 42 番地 2 号 VORT 外苑前 III 6F TEL：0120-298-956 (平日 10:00~17:00) ※祝休日を除く月曜から金曜まで